

NEWS LETTER

中央労福協ニュース



労働者福祉中央協議会
National Council of Worker's Welfare

No. 237

発行人 佐保 昌一

URL <https://www.rofuku.net>



全国研究集会 2026 in MIYAGI

災害に対する

Re:BUILD

社会のこれからを考える

6.2

2026 tue.

入場無料

6月2日 14:00～

YouTubeLiveで生配信!



中央労福協は2026年6月2日(火)14:00～17:00、「全国研究集会 2026 in MIYAGI」をhybrid開催します。いよいよ本番間近です。

今年は宮城県仙台市にある東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)大ホールから、YouTube Liveでも生配信する予定です。一般にも公開しますので、加盟団体関係者のみならず、広く役員・組合員、友人・知人、家族など、ぜひ多くの皆さんに視聴の呼びかけをお願いします。当日は全国どこからでもどなたでも、PCやスマートフォンからアクセスし、参加することが可能です。

災害大国に生きる私たちは、地震、台風、集中豪雨、林野火災、高温、雪害など、様々な自然災害などと常に隣りあわせて暮らしています。ひとたび災害が発生すれば、市街地・インフラなどのハード面、地域経済や暮らしなどのソフト面ともに甚大な被害を受け、そして再び「安心した暮らし」を取り戻すためには膨大な時間を要します。被災地が、再び元気あふれる地域へといち早く復興し、さらに発展していくためには、どのような視点・姿勢、課題認識が必要なのでしょう。そして私たちは災害から何を学び、何を後世へと伝えていくべきなのでしょう。

今年の全国研究集会では「復興」と「伝承」の2つの切り口で、被災地で実際に様々な活動に取り組む実践家を招き、被災経験を通じて「こうしておけばよかった」「こんな仕組みがあったらよかったのに」といった課題を洗

い出し、自然災害に対する認識を改め、取り組みを見直す・新たな取り組みを始めるきっかけにしたいと考えています。

わたしたち労福協はもとより、地域で活動する様々な団体、セクターとの連携のもと、地域で何ができるのかみんなで一緒に考えましょう。

6月2日は、ぜひ「全国研究集会 2026 in MIYAGI」へご参加ください。

●一般の方へ参加方法のご案内

本研究集会は「YouTubeLive 生配信」と「会場での参加」のHybrid開催です。

①「YouTubeLive 生配信」視聴によるWeb参加

当日、時間になりましたら下記QRコードから生放送をご視聴頂けます。

②「東京エレクトロンホール宮城」での会場参加

下記QRコードから詳細情報をご確認の上、「会場参加申し込み」を行ってください。

詳細は
こちらから!



No.237 Topics

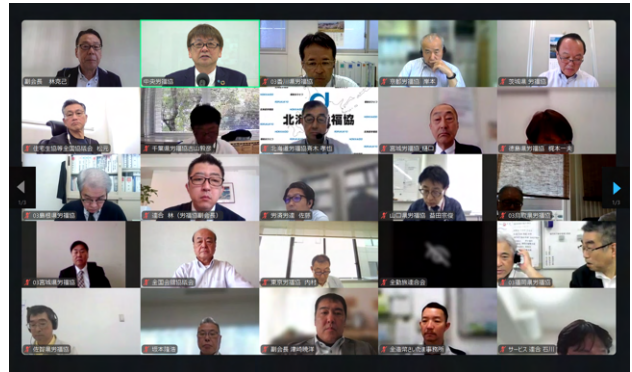
- 2面 第1回幹事会を開催!
第60回Web学習会「社会的経済の先進国調査～韓国から学ぶ～」
- 3面 今年もメーデー中央大会にブースを出演!
- 4面 中央労福協 SNS アカウントのご紹介

「第1回幹事会」(Web形式)を開催！

中央労福協は4月28日、第1回幹事会をWeb方式で開催し、98名(うち傍聴6名)が出席しました。

冒頭、座長の林克己副会長が、「昨今の中東情勢を背景に、エネルギー供給不安や石油関連製品の価格高騰など、経済活動や国民生活への影響が懸念されています。加えて、春闘をはじめとする労働運動や労働者福祉運動への影響も想定されることから、今後の情勢次第では労福協としても国や自治体に対する緊急要請を行う場面を視野に入れておく必要があると考えています」と社会情勢に触れたのち、「本日の幹事会は2026年度最初の幹事会で、同時にすべての加盟団体から幹事を選出いただき約100名が参画して運営するはじめての機会となります。議題としては、政策・制度の実現に関する申し入れ、そして2026年度以降の全国福祉強化キャンペーンに関する進め方を中心に議論いただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います」と挨拶しました。

確認事項では、「幹事ならびに役員選考委員の交代について」を確認しました。また、協議事項では「2026年度



会計中間決算報告、同会計監査報告について」「賃金規程の一部改定について(案)」「2026年度中央労福協における政策・制度実現に関する申し入れならびに『2026年度中央労福協の政策集』について(案)」「高等教育費負担軽減プロジェクトの今後の取り組みについて」「2026年度以降の全国福祉強化キャンペーンに関する進め方について」「ろうふくエール基金の助成審査について」を確認しました。

第60回Web学習会「社会的連帯経済の先進国調査～韓国から学ぶ～」

4月28日、中央労福協は第60回Web学習会を開催し、89名が参加しました。今回は、法政大学大学院 公共政策研究科(連帯社会インスティテュート)教授の伊丹謙太郎さんから、「社会的連帯経済の先進国調査～韓国から学ぶ～」をテーマに講演を受けました。

伊丹さんは昨年11月、中央労福協とともに韓国・ソウル近郊を訪問し、韓国社会的企業振興院(KoSEA)、労働共済連合社団法人フルパン、広津社会的経済ネットワーク、SSE コリアの4団体を調査しました。韓国では2007年の社会的企業振興法、2012年の協同組合基本法(FAC)制定などを経て、省庁横断の政策推進と市民社会のボトムアップ型ネットワークが両輪となり社会的連帯経済が育まれてきた実態を紹介しました。

日韓の人口動態や経済・雇用データを中心とした両国の特徴を解説する場面では、合計特殊出生率がOECD最下位となり最速の高齢化が進む韓国の現状や、国土の12%に過ぎないソウル首都圏に人口の51%が集中する一極集中など、両国共通の深刻な課題が浮き彫りになりました。また、経済水準に比べて世界幸福度ランキングが低迷している点(日本61位、韓国67位)も共通しており、「社会的支援の弱さ」が両国に共通する課題として示しました。

生協運動の父といわれる賀川豊彦については、「創設者」



としてだけでなく「人と運動をつなぐエキスパート」として再評価し、その精神が社会的連帯経済の「つながる経済」と深く通底すると述べました。また、声を上げられないまま社会や職場から離れていく人々(Voice or Exit)の問題に触れ、労働組合や協同組合運動が「逃げるのではなく、声を上げることで社会を変えていく」存在であることの重要性を強調しました。

最後に、中央労福協の2030年ビジョンが掲げる「つなぎ手」としての役割や「共助の輪を広げる」方向性は、広津社会的経済ネットワークやフルパンが体現する韓国SSEの実践と深く重なりと解説しました。韓国の経験から何を学び、日本でどのように活かすか、その問いを参加者と共有しながら、継続的な日韓交流・連携の重要性を訴えて講演を終えました。

今年もメーデー中央大会にブースを出展！

復興支援の取り組みとして福島県産のブランド米 255 セットを販売しました。



▲当日の出展ブース前にて。佐保事務局長と福島県産ブランド米です！



▲芳野会長もブースに駆けつけて購入してくれました！



▲配布したポケットティッシュ



中央労福協は4月29日（水・祝）、東京都内で開催された第97回メーデー中央大会へ加盟団体とともにブースを出展しました。

東日本大震災からの復興支援の取り組みとして、福島県産のオリジナルブランド米（天のつぶ+里山のつぶ）の食べ比べセットの販売を行いました。特に「天のつぶ」は東日本大震災が発生した2011年に販売が開始になったこと

もあり、「復興のシンボル」との声もあがっているお米です。

今回は、この2種類のブランド米各2合をキューブ状に真空パックしたセットを販売し、全体で255セットを売り上げました。当日の売上金は、自然災害により被害を受けた被災地支援や復興・再生などに取り組むNPO団体などへ寄付する予定です。



初の試み、SNS フォローキャンペーン！

当日は、中央労福協が発信している公式 SNS（X、Instagram、Facebook）の認知度向上に向けた取り組みとして、「SNS フォローキャンペーン」を展開しました。このキャンペーンは、中央労福協の公式 SNS を新規フォローしてくれた方や、もともとフォローしてくれていた方を対象に、フォローした SNS の数に応じて「きょうちゃんグッズ」をプレゼントするという取り組みです。

◀ SNS フォローキャンペーンも盛況でした！

加えて、中央労福協加盟の労働者福祉事業団体などによる共通宣伝行動として、団体の活動を紹介するチラシを封入したポケットティッシュを作成し、ブースの来訪者のみならず、メーデー中央大会に参加された方々に配布をしました。チラシは、労働者福祉事業団体の活動がひと目で分かるように工夫するとともに、協同組合による「共助のネットワーク」を周知する内容にしました。

なお、お米は当日ブースでの販売に加え、一部をメーデー中央大会会場内に設置された食料・文房具の寄付受付ブースに寄付しました。また、残在庫についても、今後被災地支援団体やフードバンクなどに寄付する予定です。

食料・文房具の寄付受付



▲寄付受付ブースにお米を寄付しました！

中央労福協の活動・事業に関する情報はコチラから

website



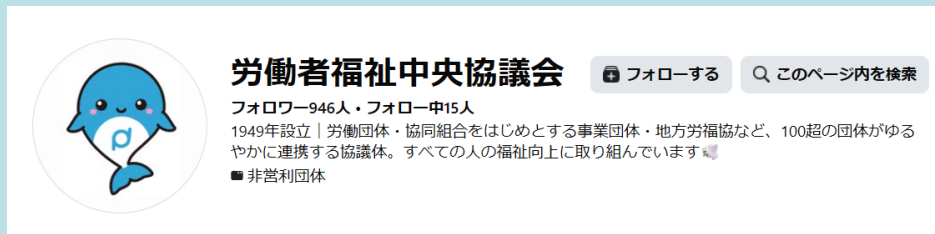
X



instagram



Facebook



YouTube



★各種媒体で情報発信中★



中央労福協は、活動報告や開催イベントの案内など
様々な情報を SNS で積極的に配信中です！
最新情報がタイムリーに掲載されますので
ぜひ、フォローをお願いいたします！

